

## 【お話おばさんの西播磨昔話】<sup>やひら</sup>夜比良神社 川を渡ってお参りに

昔々、神代の頃のお話や。  
播磨の国に、<sup>おおくにぬしのみこと</sup>大国主命様が出雲の国からやってこられた。鮫に皮をはがされた白ウサギを助けた神様や。<sup>くにつくりおおなむちのみこと</sup>「国作大己貴命」とも言われた神様は、この地に留まって、病気や、わざわざを払い、土地を開墾して、夜比良神社を作られた。もう一つの話も残っとる。

これも、大昔の話や。<sup>なかしん</sup>中臣山の隣に権現山がある。大けな岩が突き出るとところに、<sup>やひろ</sup>一晩で八尋（15m）もある白旗が立ったんや。「われは、伊和の大神なり」と、神様の大声を村人達は聞いた。

白旗の八尋から、夜比良神社の名前が付いたともいわれとる。今は、もう、大けな岩は無うなって

しもたんやと。もったいない話や。

氏子は、現代は揖保川を挟んで、東に揖保上、揖保中、今市。西に正條、新在家の5ヶ村や。なんで、川を挟んで氏子がと思うやろ。それはな、暴れ川やった揖保川が原因や。ごつう大雨が降ってな、川の流れが変わって、川を渡らんと神社に行かれんようになった。

けど、信仰心が篤かった氏子達は、船に乗ってお参りをしたよ。昭和の初期まで、揖保川を横断して、新在家と中臣を結ぶ（やひらの渡し）があった。夜比良神社に続く道も（やひら道）と言われとった。橋が出来、自動車が走るようになって、渡し場は無くなってしもた。けど、ゆったりと川を渡



夜比良神社

る船を、もう一度見たいもんやなあ。

平成17年には、伝統が途絶えてしまう言うて、新在家の獅子舞が復活した。奉納したときには、年寄りが涙ぐんで喜んだ言うこっちゃ。年番にあたった村が中心になって神様の御恩に感謝してお祭りをする。

なあ、みんな、四季折々に美しい、鎮守の柱に遊びに来てな。

【文責：浜田多代子】

## 「花の命をいただいて、押し花ひとすじ20年」

### 長谷川里美さんをお訪ねして

7月25日、たつの市新宮町で恒例の曾我井夏祭りが公民館で催された。毎年その体験コーナーで長谷川さんが押し花教室をされる。園児・小学生から大人まで男の子も女の子もみんな葉書やウエルカムボードに好きな押し花をピンセットで思い思いにデザインして楽しんでた。色とりどりのかわいい小花、動きのある青葉などがいっぱい紙皿に用意されていた。毎年体験会用に500人分ぐらいは用意されてい



長谷川さん

るといふ。もちろん押し花用にいっぱいお花も育てておられる。

長谷川さんと押し花との出会いは、平成7年にご主人の転勤で但馬に行かれ、雪に閉ざされた生活の中で、「不思議な花倶楽部」の押し花に心癒され、そこで押し花の技術や表現を学ばれたとのこと。但馬は植物の宝庫で2000種類もの花があり、たくさんの花との出逢いの中で、生来の豊かな感性がいつそう磨かれ、繊細さと透明感・奥ゆきと広がりのある長谷川さん独自の押し花の世界が形作られたのであろう。明石に転居後は、阪神地域で、その普及に尽力された。今はご主人の故郷曾我井で地域の方と一緒に押し花体験

コーナーをされたり、県下のあちこちからの依頼にに応じておられる。長谷川さんの押し花は、名もない野花から洋花、きゅうり・茄子・れんこん・ごぼう・西瓜などの野菜、メロンの皮、苺などの果物、根なども面白い動きとなること。押し花によって、またそれぞれの花が新たな命を吹き込まれて素晴らしい作品の一部となって生かされている。

入院中の友達に押し花入りの手紙を届けたいというお母さん、夏休みのいい宿題ができたと喜ぶ小学生、「おばあちゃんと一緒に今年も押し花をしたね」と嬉しそうなお小さな子、本当にこころが和むひとときだった。

【取材・文責：宮田直美】